

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 392 回 時間は「命」の源泉だ！

2010.11.21

中小企業は「人繰り」「金繰り」、そして「時間繰り」だと思っている。特に、「人繰り」「金繰り」については、色々な場面で語られている。この2つの要因は、自分ひとりで、とても改善できるものではない。多くの人との関わりや、いくつかの機会の成否が関係し、複雑な側面は否めない。

でも、「時間繰り」は……と考えてみた。
時間は1日24時間、これは何びとたりとも同じ条件だ。
要は、この24時間をどう使うかが「時間繰り」だとすれば、
自分自身の動き方、考え方で何とかなりそうだ。
だから僕は、意識的に「時間繰り」と勝負している。

時間とは24時間だから量的に平等で、
でも、使い方は自由だから質的には不平等ということになる。
昔から、世の中の成功者の共通項は、時間の使い方が上手なことだといわれている。
だからこそ、この不平等さをチャンスにしてしまうのが、「時間繰り」だと思う。

時間の活用と浪費の違いは、成果と業績に直接表れるのも真実だ。
我々中小企業の経営者が成果をあげるための第一歩は、
実際の時間の使い方を有効的に改善することだと思っている。
ポイントは「早起き」と「準備のための準備」。

ちなみに「時間繰り」に挑戦し続ける、僕の1日。
毎日大量に酒を呑まないと、体調がおかしくなる僕は、
正直ゆえ、その通りの生活を実践している。
だから、夜はいつも酔っ払いながら、午後8時か9時には、ご就寝。見たいテレビは全て録画。
これが実によく熟睡でき、ほぼ午前2時か3時には、心地良い目覚めを迎えられる。
午前7時に出社準備を開始するとすれば、ほぼ4～5時間は「僕だけの時間」である。
電話もない、行列の出来る相談、打合せもない。
出来ない弁解を聞いたり、逆に叱ったり...、イライラしたり、呆れたり、
こんな神経をすり減らす時間が全くない「僕だけの時間」が、
毎日5時間あれば、どれだけのことが出来るだろうか？

どんな世辞や甘言を聞くより、優れた癒しのマッサージを施されるよりも、
リフレッシュでき、良い心もちになり、たぶん、元気の源になっているに違いない。
その「気」の源泉は、更に増幅、拡大、そして進化する。
その結果として、準備のための準備ができ、従業員誰よりも情報を把握でき、
遣り残した仕事を全て片付けられる。
こんなすっきりできる「時間繰り」、正に**時間が「命」の源泉**となっている証であろう。
睡眠時間の減少を心配するより、元気の源泉を作るほうが、よほど健康的である。
そうであれば、「時間がない」と嘆いている人は、まことをもって不健康であると言っておく。
...いつまで寝てるんだ！そんな寝るとバカになる...(いやはや失礼)
時間は質的に有る、時間は質的に創ればよい...と思っている。
僕のやり方がベストとは思わないけれど、心の健康のために、
あなた流「時間繰り」へのチャレンジ、是非是非、お勧めしたい。